



四日市市立朝明中学校第2学年
学年通信第22号 2023/3/13（月）

～仲間の和を大切に・学び多き学年に～

心の声を聴く

学年集会後の、各自の振り返りを読みました。

ルールに対して緩んでいた自分を振り返り、変わろうという意志をもつ人。

いけないことを知りながら、受け流していた自分に気づき、周りに働きかけようと意欲をもつ人。読むごとに勇気をもらう気がしました。

しかし、一方で、客観的に学年の様子を見て、本当に変われるのかと心配する人。

これまでずっと働きかけてきたのに、わかってもらえないと嘆く人。

そんな人たちの声を聴き、心が締め付けられる想いもしました。

176人が、皆自分の思うままに振舞えるとしたら、それが究極の理想なのかもしれません。けれども、一人ひとりに好みがあり、考え方がある限り、どこかで折り合いをつけなければなりません。だから、みんなにはこれからも学校生活において我慢を強いることになるでしょう。それが、マナー・ルールを守るということだと思います。

けれども、誰かだけが大きな我慢をし、誰かだけが、自由に過ごす…これはあってはならないことです。

どこかで譲り、どこかで譲られ、互いに感謝し合うことで「心地よい生活」が大きな集団の中にあっても実現するのではないのでしょうか。

「今、自分は皆にどう思われているか。」

考えたことはありますか。好かれている、嫌われているということを聞いているのではありません。「あなたの良さを他人に理解してもらっているか。」ということです。

人は、表情、声、動作、言葉、さまざまなもので、人を判断します。みんなが、相手を見るように、みんなは周りの人たちから、さまざまところで見られています。

これを、心から「どうだっていい。」と思う人は、そういないと思います。

できることなら、自分をわかってほしい。自分のいいところを認めてほしい。

違いますか？

体が大きい。力が強い。勉強ができる。スポーツができる。

もちろん、それも長所です。

ですが、もっと深いところに、あなたには、あなたの良さがあります。

そして、その良さを人との関わりの中で、自然に表に出せるようになったら。

きっと、人間関係はとてもスムーズになり、自分自身がとても楽になると思います。

そして、すてきな人生につながると思います。

だからこそ、今みんなは、自分自身の「本当の良さ」を表に出すことを学校で実践練習しているのです。

人と関わらなければそれはできないし、

相手がいなければ、何も理解してはもらえません。

まわりの人を もっと もっと もっと 大切にしましょう。

相手の「心の声」を聴き、自分のよさが発する「心の声」を聴き、

あなたの表情と、声と、動作と、言葉にのせてください。

そして

自分のことも、相手のことも あきらめないでください！

みんなは、まだまだまだまだ これからです！

保護者の皆様へ

この一年、地域の声の中には朝明中学校に対する厳しいお言葉もあり、保護者の皆様にはたくさんご心配をかけたことと思います。

ただ、いつも思うのは「生徒たちの学校の様子を見に来ていただきたい。」ということです。前回の学年通信にも書きましたが、授業で彼らが、真剣に取り組む様子は素晴らしく、大人が考えおよばない意見が聞かれることも少なくありません。また、困っている人を見つけると、必ずどこからでも声を掛けてくれます。心優しい子どもたちです。

ですが、これはあくまでも、中の目から見た様子であり、地域や社会の全ての方に届く姿ではありません。交通マナー・公共の場でのマナーに苦情が寄せられるということは、やはり外での生徒たちの言動は、今なお、社会に受け入れられる状況ではないということだと思っています。

「先生が見ているときだけ」「保護者が見ているときだけ」ではなく、一年後には義務教育を終える子どもたちが、「自分自身で善悪を判断する。」よう、育てていかなければと思います。そのためには、学校教育、家庭教育の両輪が必要です。春休みを機会に、今一度、ルールやマナーを守る意義について、お話し合いただければと思います。お子様は、受験期に入っていきますが、内面の教育は、必ずや受験においても生きてきます。巣立つその前に、精神的な成長を遂げ、どこでも人に慕われる「人」として、送り出したいと思っています。ご協力のほど、よろしくお願い致します。